



# 今週の T2 経済レポート

2021年1月22日号

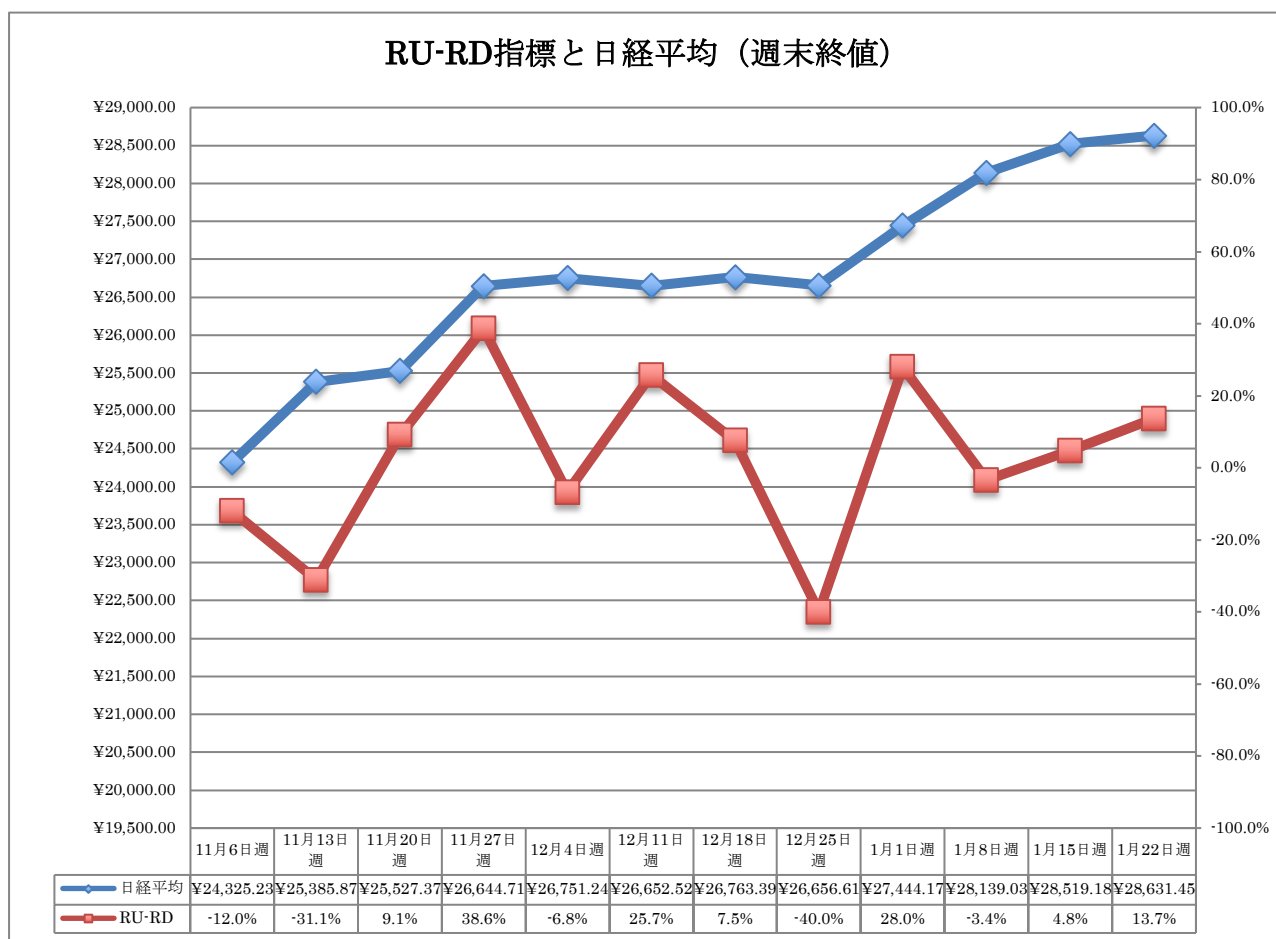
## ■■■ 市場ウオッチ ■■■

### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場の継続が期待される週です。今週(1/18~1/22)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月8日週は+13.7%と2週連続のプラス圏となったことで堅調相場が期待されます。12月に入り、プラス圏とマイナス圏を毎週、交互に繰り返す方向感なき状況が5週間継続していましたが、2週連続プラス圏と久々に方向感が出たかたちです。ただ、来週(1/25~1/29)の相場を占う1月15日週は-4.3%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことから急落調整に警戒が必要な週となります。20日に米大統領選就任式を迎えますが、ワシントンDCに兵士が3万人以上集まる異常な状態で予定通りに就任式が行われて、バイデン政権が正式に発足するのかが注目されます。何かのアクシデントが起きた場合は、その状況次第では来週の急落調整が前倒しで起こる可能性も否定できないため警戒が必要です。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%と23週連続プラス圏ですが、9月4日週、10月9日週の2度、一瞬、上限ゾーンを突破したものの上限ゾーンが継続するような状態とはならず足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、18日に11月鉱工業生産(確報)、20日に12月貿易収支、22日に12月全国消費者物価指数、一方、海外では、18日に中国10-12月期GDP、中国12月鉱工業生産、中国12月小売売上高、20日に米1月NAHB住宅市場指数、21日に米12月住宅着工

件数、米1月フィラデルフィア連銀景況指数、22日に米12月中古住宅販売などが予定されています。21日発表の1月フィラデルフィア連銀景況調査(製造業景況指数)は12.6と、前月の11.1から改善が見込まれていますが、経済制限強化の影響で伸びが鈍化すれば、回復期待が後退する見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は20日に日銀金融政策決定会合(21日まで)、21日に黒田日銀総裁会見、一方、海外では、19日には次期財務長官に指名されたイエレン前FRB議長の承認公聴会、20日に米大統領選就任式、21日に欧ECB定例理事会が予定されています。」とコメントしました。



1月1日週	1月8日週	1月15日週	1月22日週
¥27,444.17	¥28,139.03	¥28,519.18	¥28,631.45
28.0%	-3.4%	4.8%	13.7%

先週の日経平均は、高値28846円(1月21日)・安値28111円(1月18日)と推移、4週連続で前半・後半高の強いかたち。先週は、週初、急ピッチでな上昇に伴う短期的な過熱感から利益確定売りが嵩み下値目標値を達成しましたが、イエレン新米財務長官が大規模な経済対策の必要性を示す方針と伝わったことやバイデン氏の大統領就任式が無事通過したことによるご祝儀相場などで反発、週間ベースで+112円高と4週続伸、年末年始を含めここ4週間で+1975円急騰して終了

しています(先週予告していた上値メド 29219 円～29803 円(+2%かい離)//下値メド 28130 円～27567 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、1 月 18 日までに 29000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。29000 円大台替えで仕切り直し、逆に、27500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、1 月 18 日までに 29000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。30000 円大台替えで仕切り直し、逆に、27000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、1 月に 28000 円大台替えで仕切り直しが入りました。29000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、27000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期↑となり、長期はまだ強含みですが、短中期は方向感がなくなり乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値31272ドル(1月21日)・安値30865ドル(1月19日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、イエレン次期米財務長官候補が1月19日に開かれた指名承認公聴会で「債務拡大につながっても恩恵は代償を上回る」との考えを示したことやバイデン新大統領就任式が無事通過したことによるご祝儀相場の一方、米国における新型コロナウイルスの感染被害が増加していることが懸念され上値・下値両目標値を達成しない方向感の週となり、週間ベースでは+142ドル高と前の週と異なり、反発して終了しています(先週予告していた上値メド 31387ドル～32014ドル(+2%かい離)//下値メド 30532ドル～29921ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、1月7日までに31500ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。32000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、30000ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、1月6日に31000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。32000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、30000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、時間切れとなっていました。1月に31000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。32000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、30000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑、となり、中長期は依然強含みですが、短期が時間切れとなり、目先、乱高下で波乱が起きやすいかたちに変化しました。

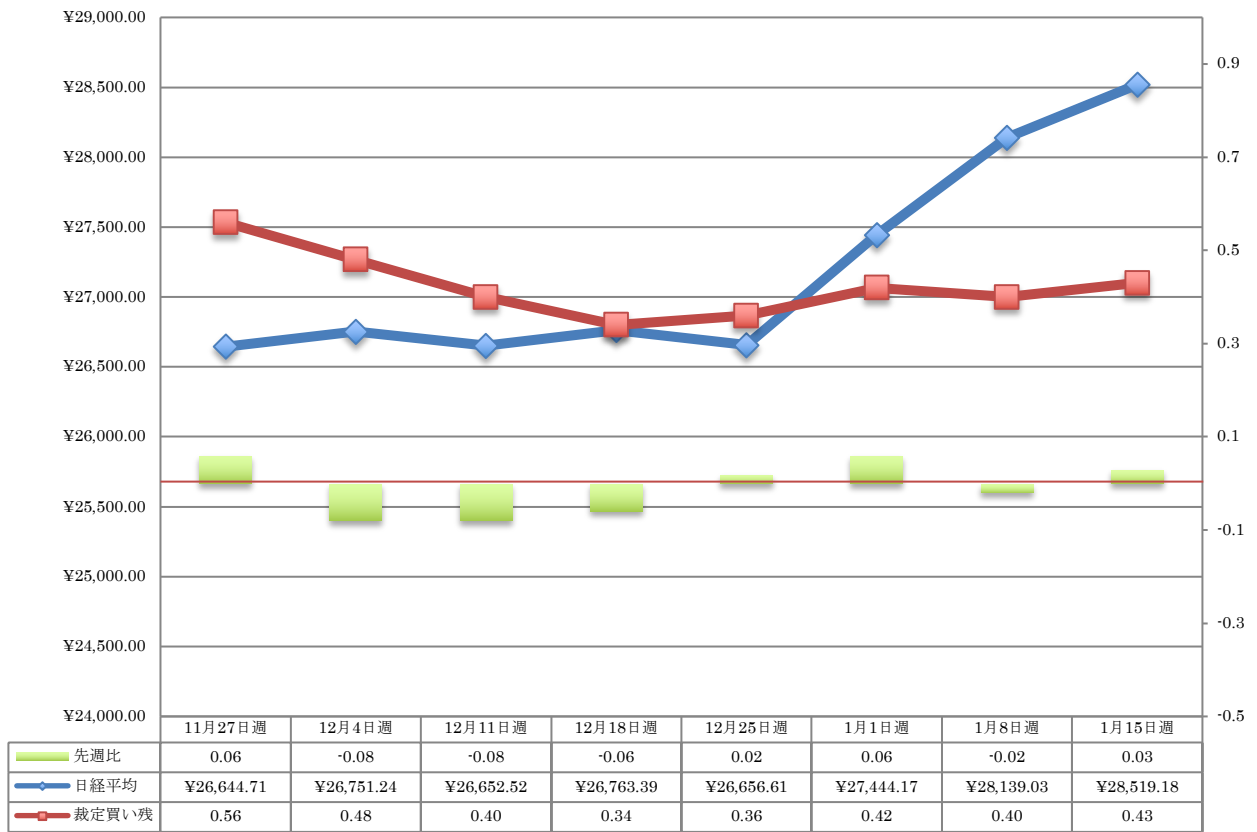
一方、為替は、ドル・円が104.08円～103.31円(先週予告していた上値メド104.49円～105.53円(+1%かい離)//下値メド103.26円～102.22円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な動きでしたが、実質4連続の円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.2189～1.2052(先週予告していた上値メド1.2234～1.2356(+1%かい離)//下値メド1.2089～1.1968(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、2週連続のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、126.42円～125.05円(先週予告していた上値メド126.85円～128.11円(+1%かい離)//下値メド125.53円～124.27円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、2週連続の円高・ユーロ安。前の週のドル>円

>ユーロが2週連続で継続したかたちです。1月21日に開かれた欧州中央銀行(ECB)理事会で金融政策の現状維持が決定され、ラガルド ECB 総裁は、「ユーロ圏経済は昨年10-12月期に恐らく縮小しており、今年1-3月期にも影響は及ぶ可能性がある」との見方を示しリスク回避的なユーロ売りが継続したものの、1-3月期におけるマイナス成長は想定内との見方も多いことからユーロ売りは限定的となっています。

## <裁定買い残・裁定売り残>

前の週と異なり増加。昨年3月23日週に1月以来となる7000億円台に回復後、長い期間、反動減が続いている状況です。一方、「裁定売り残」は、前の週比+572億円の1兆3715億円と、6週間振りに増加。昨年11月30日週に1週だけ増加したものの前の週までの実質9週間で7983億円減少と買い戻しが起きており、日経平均が30年振りに28000円大台を回復した牽引役の一つとなっています。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18年9月14日週~28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週~10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

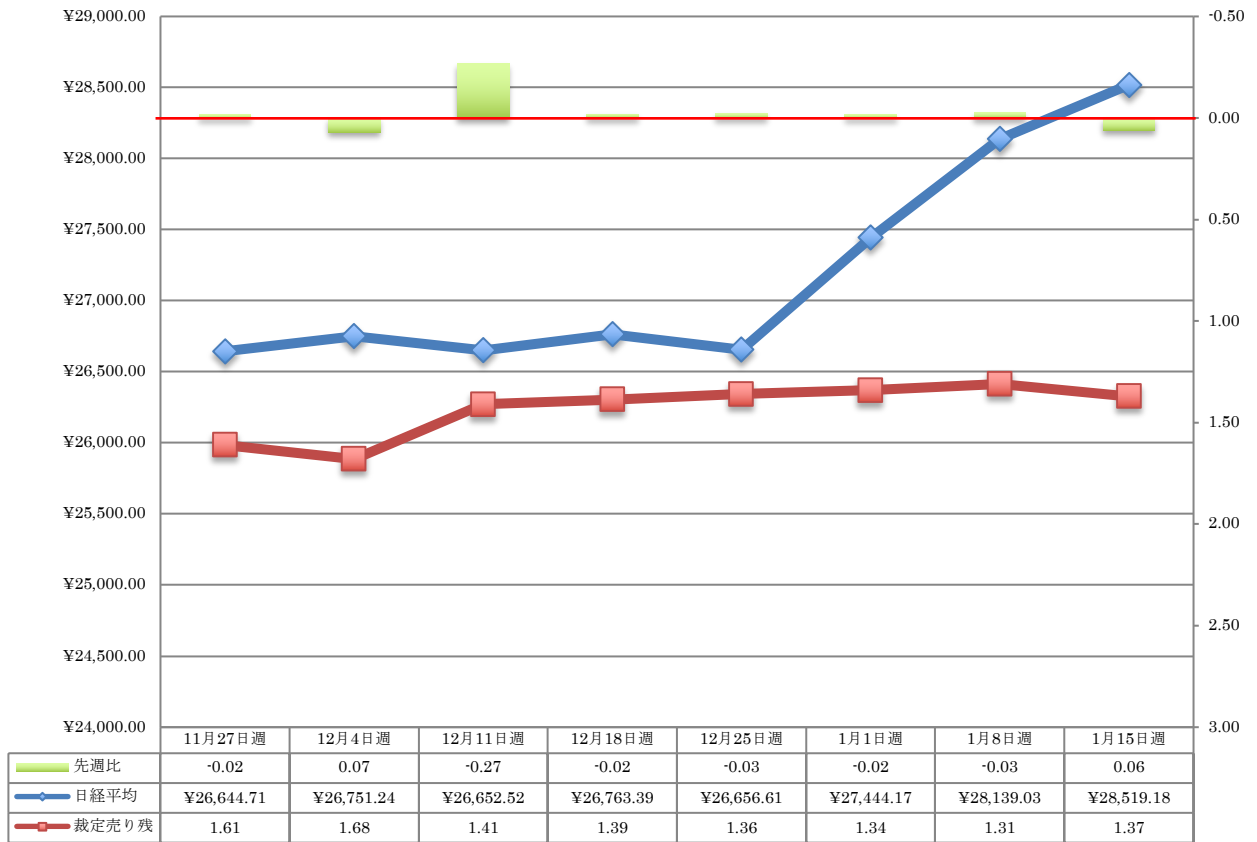
### 裁定買い残と先週比



12月25日週	1月1日週	1月8日週	1月15日週
¥26,656.61	¥27,444.17	¥28,139.03	¥28,519.18
0.36	0.42	0.4	0.43
0.02	0.06	-0.02	0.03

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



12月25日週	1月1日週	1月8日週	1月15日週
¥26,656.61	¥27,444.17	¥28,139.03	¥28,519.18
1.36	1.34	1.31	1.37
-0.03	-0.02	-0.03	0.06

単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は急落調整に警戒が必要な週となりそうです。今週(1/25~1/29)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月15日週は-4.3%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことから急落調整に警戒が必要な週となります。さらに、来週(2/1~2/5)の相場を占う1月22日週は-11.4%と2週連続のマイナス圏に陥っていることから軟調な相場が継続しそうです。2週連続でマイナス圏に陥るのは昨年10月12日週~19日週以来、約3ヶ月振り。今週、予告通りに急落するようですと年末年始の急騰劇が一巡したことを示すシグナルの点灯となりますので要注目です。先週、20日に大統領就任式が無事通過したのですが、兵士が3万人以上集まる異常な状態、さらに「ライブ中継の天気が20日と異なるのでは？」などの声も多く、本当にバイデン政権が正式なかたちで発足したのかが注目される所です。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%と24週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%に続く、3度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、来週以降も上限ゾーン突破を継続するかたちで天井形成を示唆するか注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、28日に12月百貨店・スーパー販売額、12月小売業販売額、29日に12月失業率、12月有効求人倍率、12月鉱工業生産指数、一方、海外では、25日に独1月Ifo景況感指数、26日に米1月消費者信頼感指数、27日に米12月耐久財受注、28日に米10-12月期GDP速報値、米12月新築住宅販売、29日に米12月個人支出・個人所得、などが予定されています。1月28日発表の米10-12月期国内総生産(GDP)速報値は7-9月期に33.4%増と過去最大の伸びを示したのち、成長率は4.8%へ鈍化する見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は29日に日銀金融政策決定会合の主な意見(1月20-21日開催分)公表、一方、海外では、26日に米FOMC(27日まで)、27日にパウエルFRB議長会見、などが予定されています。1月26-27日開催のFOMC会合で市場では現行の大規模な金融緩和政策を維持すると見込んでいますが、注目は昨年末に決定した追加経済対策の資金供給策をどのようなかたちで供給するのか注目されます。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



1月15日週	1月22日週	1月29日週	2月5日週
¥28,519.18	¥28,631.45		
4.80%	13.70%	-4.30%	-11.40%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 29503 円～30093 円 (+2%かい離)

下値メモ 28357 円～27789 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 31759 ドル～32394 ドル (+2%かい離)

下値メモ 30777 ドル～30161 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 104.58 円～105.62 円 (+1%かい離)

下値メモ 103.41 円～102.37 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.2136～1.2257 (+1%かい離)

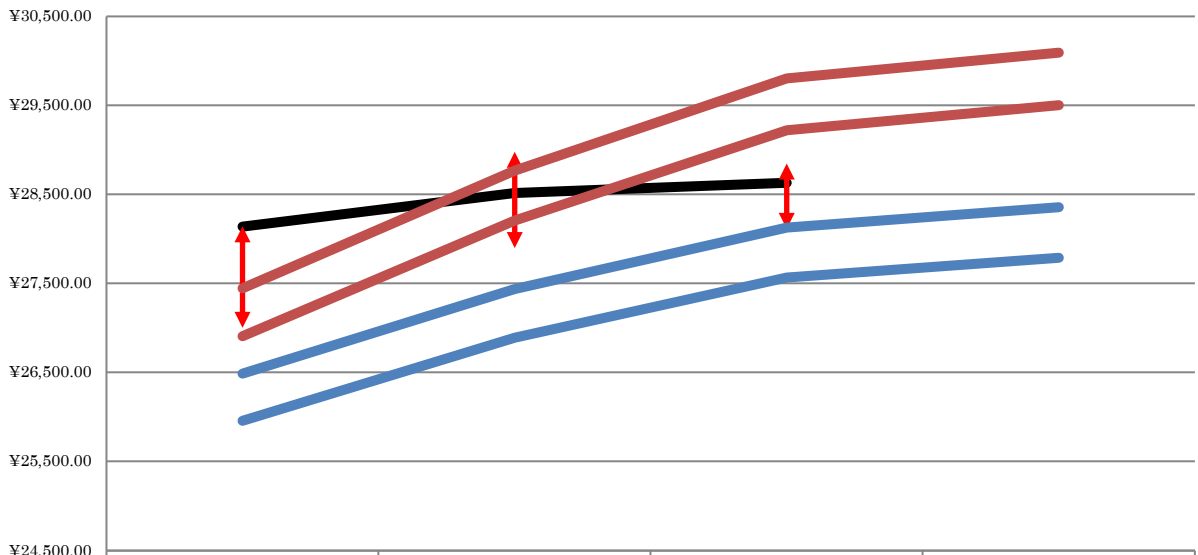
下値メモ 1.1984～1.1864 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 126.15 円～127.41 円 (+1%かい離)

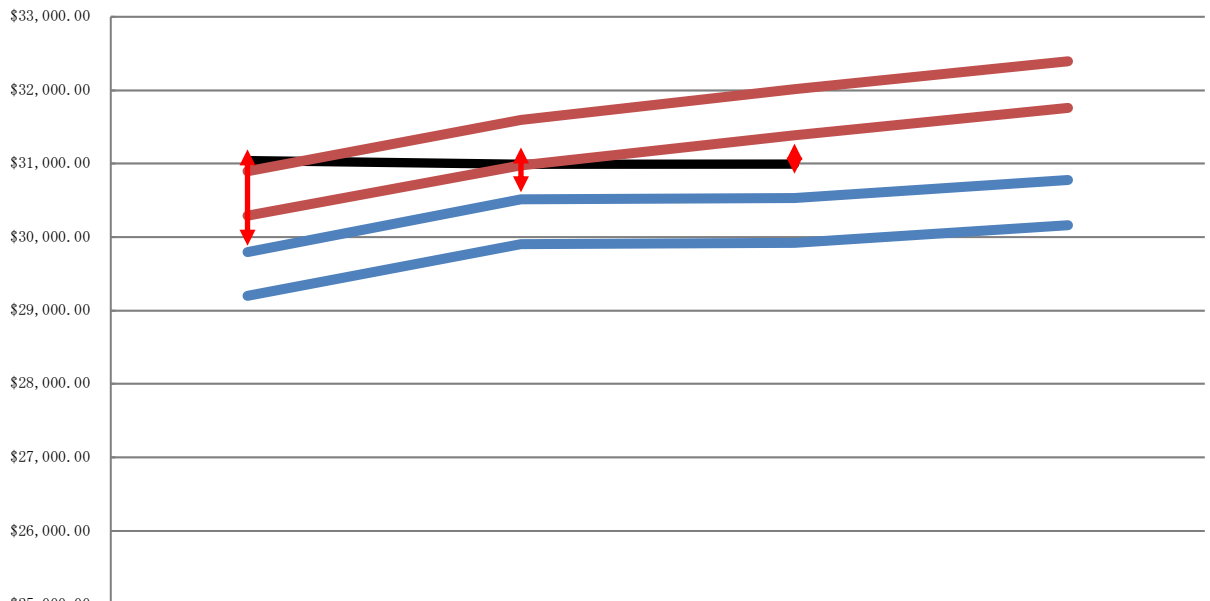
下値メモ 124.68 円～123.43 円 (-1%かい離)

### 日経平均



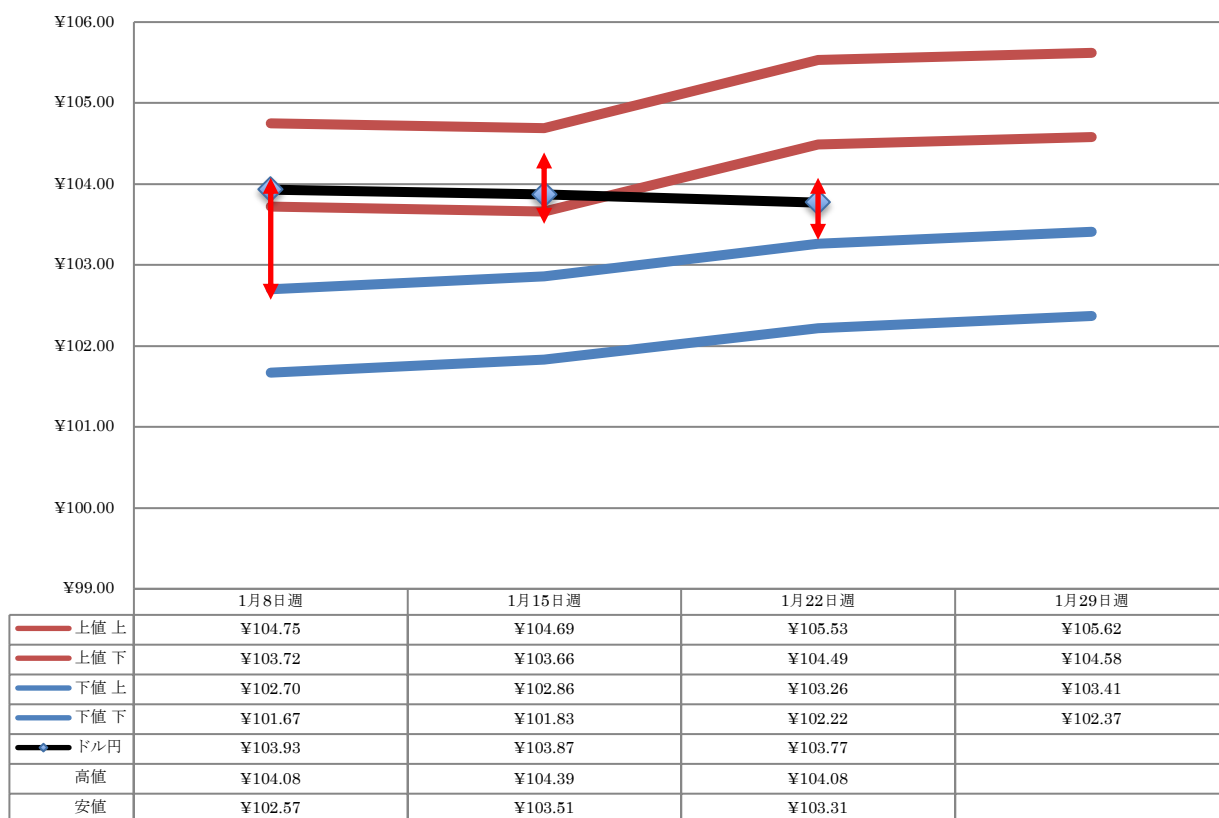
	1月8日週	1月15日週	1月22日週	1月29日週
■ 日経平均	¥28,139.03	¥28,519.18	¥28,631.45	
■ 高値	¥28,139.03	¥28,979.53	¥28,846.15	
■ 安値	¥27,002.18	¥27,899.45	¥28,111.54	
■ 上値 上	¥27,446	¥28,771	¥29,803	¥30,093
■ 上値 下	¥26,908	¥28,207	¥29,219	¥29,503
■ 下値 上	¥26,488	¥27,441	¥28,130	¥28,357
■ 下値 下	¥25,958	¥26,892	¥27,567	¥27,789

### NYダウ



	1月8日週	1月15日週	1月22日週	1月29日週
■ NYダウ	\$31,041.13	\$30,991.52	\$30,996.98	
■ 上値 上	\$30,896	\$31,599	\$32,014	\$32,394
■ 上値 下	\$30,291	\$30,980	\$31,387	\$31,759
■ 下値 上	\$29,795	\$30,515	\$30,532	\$30,777
■ 下値 下	\$29,199	\$29,904	\$29,921	\$30,161
■ 高値	\$31,193.40	\$31,223.78	\$31,272.22	
■ 安値	\$29,881.82	\$30,612.67	\$30,865.03	

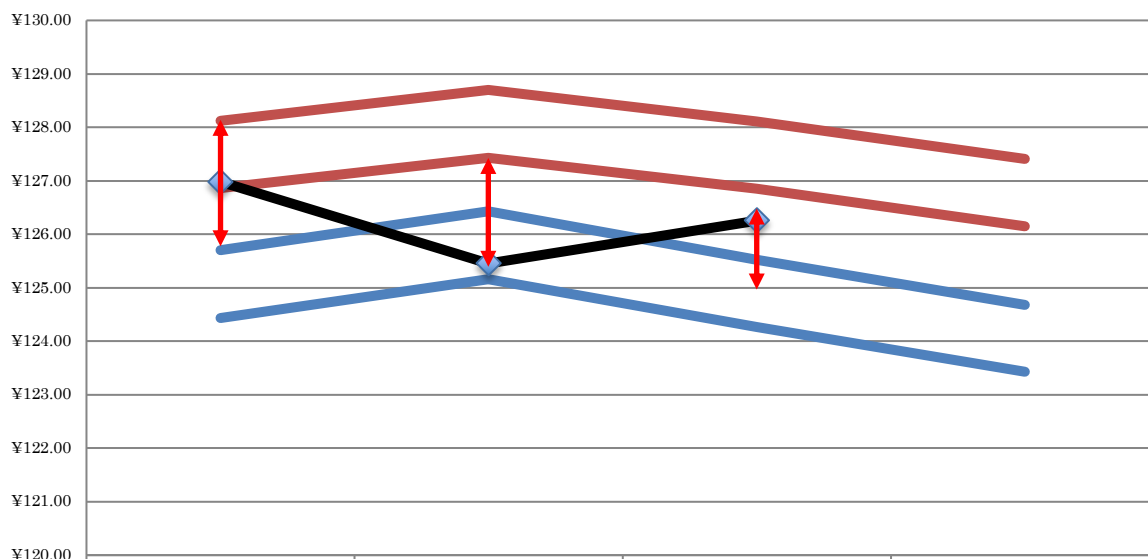
## ドル円



## ドルユーロ



## ユーロ円

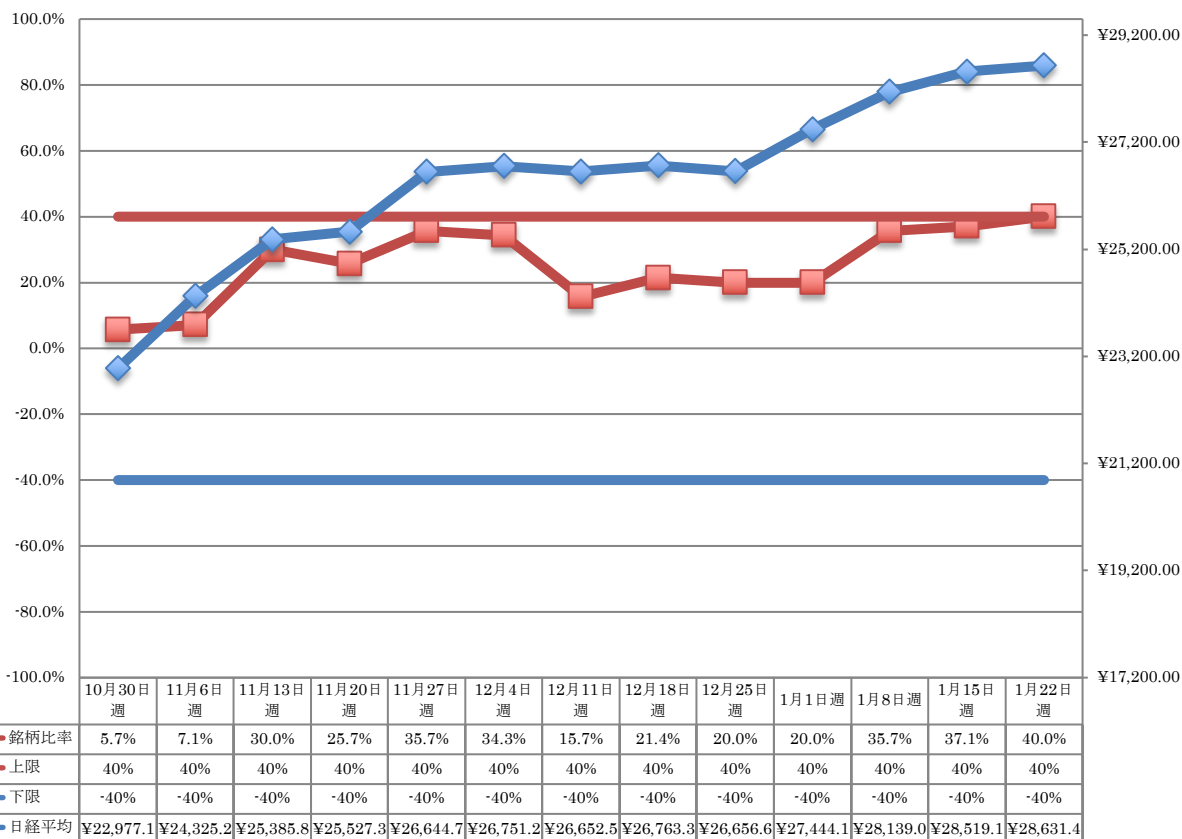


	1月8日週	1月15日週	1月22日週	1月29日週
上値上	¥128.12	¥128.70	¥128.11	¥127.41
上値下	¥126.86	¥127.43	¥126.85	¥126.15
下値上	¥125.70	¥126.43	¥125.53	¥124.68
下値下	¥124.44	¥125.16	¥124.27	¥123.43
ドルユーロ	¥126.98	¥125.45	¥126.26	
高値	¥128.14	¥127.43	¥126.49	
安値	¥125.77	¥125.39	¥124.97	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%と24週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%に続く、3度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、来週以降も上限ゾーン突破を継続するかたちで天井形成を示唆するかか注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。